

森林レンジャーがゆく (38)

防災機能を備える植樹



市では、友好姉妹都市の栗原市との交流事業として、中学生のスポーツを通じた交互訪問を行っています。今年あきる野市が栗原市の中学生を受け入れ、7月31日には交流事業の一部を森林レンジャーが行いました。

今回のプログラムは「防災機能を備えた植樹」です。両市の中学生53人が小宮地区寺岡の民地に、地主さんの快諾のもと、ヤマハギの苗15本を植樹しました。

「小宮ふるさと自然体験学校」のある軍道周辺では、その地名の語源と言われる崩れ土「グズド」が「グンドウ」に変化したと言われています。隣接する寺岡の植栽予定地にも東京都が設置した地滑り警報器があります。

日本は多雨で急峻な地形が多いため、江戸時代から多くの土木技術が構築されてきました。特に土留めや砂防工事にはさまざまな在来工法があります。これまでコンクリートと外来牧草種で行われてきた工事も、近年は在来の工法が見直されてきています。

「ヤマハギ」の植栽もその一つで、細根が広がり表土を安定化させ、浸食を防ぐと言われています。このことから土砂崩れの初期的な防災機能があると言えます。また、植栽後の管理が草刈機などを使った刈り込みで済むため、手間がかからないことも大きなメリットと言えます。

この「ヤマハギ」は古くから日本人になじみのある植物でもあり、秋の七草に含まれ、万葉集に141首の歌が詠まれているようで、8月の終わりからピンクの可愛い花が咲きます。

植栽現場となった地滑り警報機の上端部斜面に50人以上の中学生が一度に集



うのは危険なので、植栽班と灌水班の2班に分け、植栽班は苗木の運び上げと植栽をした後、五柱神社の大杉の見学をしました。灌水班は、五柱神社の大杉を見学した後、養沢川まで下りてゴミ袋に水を汲み、運び上げて灌水するという形をとりました。

最後にスコップなどの道具を洗い、体験学校の展示を見学してこの日の私たちのプログラムは修了しました。植栽後の「ヤマハギ」は順調に根付いています。

今年の夏は、日本列島各地で集中豪雨による土砂崩れの被害が多発しました。次世代を担う中学生たちにとって、将来、少しでもこのような被害を軽減するためのヒントになればと思っています。
(杉野)